

## 1 文献を探す

3つのテーマについてそれぞれサブテーマをつけることができれば、次に3つのテーマのうちの最有力候補を一つ注目して、関係のある分野の文献（論文・書籍・資料等）を集めましょう。文献の集め方については「文献を探そう」(pp.19-26)を参考にしてください。自分たちが考えた研究テーマの背景を知り、理解を深めるためには研究テーマに関する参考文献（先行研究や事例など）を入手し、文献調査を行うことから始めます。現状で明らかにされていることなどを踏まえ、研究の業績を変化させることが研究の意義になります。まずは図書館やインターネットを活用して、参考文献（論文・書籍・資料等）を探し出す必要があります。

## 2 その分野について学ぶ

今まで皆さんは、教科書や資料集など、学校が与えた書籍を中心に学習してきました。課題研究では学ぶべき文献は自らの力で探し出す必要があります。書籍は多くの人の目を通して発信される情報なので信頼性は高いですが、一つの文献で理解した気分になるのではなく、多くの文献に目を通し、その分野に関しての体系的な知識や理解を得ましょう。

インターネットは情報を得る手段としては有効ですが、その分野の一部分しか拾ってこれないことが多いため、体系的な知識や理解を得るには不向きです。個人でも情報発信できるため、情報の発信元を把握しておくなど、注意が必要です。まずは図書館などで文献を集め、正確に読み解くことが大切です。ここを疎かにしてしまうと、研究テーマを深く掘り下げることができず、浅いところで這い回ってばかりの深みのない研究になってしまいます。もっとも手間のかかる場所ですが、その分野についての新しい知識が得られるのも文献調査の楽しみでもあります。文献調査の方法は、「文献を読もう」(pp.27-28)を参照してください。調査内容については、「テーマに対する現状の問題点」や「テーマについて知らないこと」を調べます。そして、「テーマに対する現状の問題点」や「先行研究から分かったこと」を「研究テーマ（候補）予備調査シート」にまとめてみましょう（p.59 様式 1-3）。その際、グループで分担しながら予備調査を行いましょう。そして調べた内容は後で探すときに混乱しないように「資料リスト」「言語検索・疑問解決シート」（pp.62-63 様式 2-3,4）に記録を残しておきましょう。

また、皆さんが今思いついている研究テーマは、他の誰かがすでに研究している内容かもしれません。身近な気づきからテーマを思いつくのなら、むしろその可能性が高いと言えます。ではそのテーマは成立しないのかということそうではなく、先行研究をもとに、少し視点を変えて研究してみればよいと思います。

### 3 言葉の定義

今後、みなさんが先行研究や参考文献を通して、研究テーマへの知識・理解を深めていくにあたって、研究テーマの内容について具体的に理解する必要があります。そして、調査・研究したことを研究レポートとしてまとめます。研究レポートは、読む人が誰でも分かるような表現方法で、論理的に記述することが求められます。「論理的」とは、筋道が通っている、つじつまが合っているということです。しかし、筋道がきちんと構成されていても、論を構成する言葉の意味が明確でなければなりません。例えば、「おいしいラーメンを作るためには」というテーマにおいて、「おいしい」とはどのようなものを指すのでしょうか。人によって美味しさは異なるはずですが、塩味が効いていたり、味噌の味がするラーメンをおいしいと感じたりといったように、人によって解釈が異なる言葉は明確に定義を示す必要があります。

『あの人はなぜ、東大卒に勝てるのか』（津田久資 2015 ダイアモンド社 p.102）において、以下のように述べています。

**『ただ、僕が強調しておきたいのは、いくら精緻かつ壮大な筋道を組み立てたとしても、その「部品」が壊れていれば、すべてが水泡に帰する可能性があるということだ。**

**筋道としての論理を組み立てるにしても、結局、その部品になるのは言葉である。だから言葉を明確にしなければならない。』**

また、「論理思考とは、言葉を部品としながら筋道をつけていく発想」（同著、p.109）であると述べています。つまり、読む人が誰でも分かるような論理的な記述とは、言葉を明確にして、筋道をつけていくことであるといえます。だからこそ、言葉の定義は重要なのです。

## 不適当な研究テーマの例

ここまで、皆さんは参考文献（先行研究・事例）等を活用して、研究テーマ（候補）に関する理解を深めたと思います。進めていくにあたって、このテーマでは研究が進まないのではないかと感じたグループもあったかもしれません。研究テーマは先行研究がある程度存在し、人々の行動について洞察がしやすく、自分たちの能力で解決するものにするのが大切です。ここでは、研究テーマとして適当でないものを紹介します。

### ①スケールが大きすぎる問い

「人間とは何か」、「愛とは何か」、「宇宙とは何か」、「音楽とは何か」などです。このような問いは、Webbingなどの思考法を用いてもっと具体的に考えましょう。

### ②個人の意欲・努力・才能で結果が左右されるものに関する問い

「どうすればダイエットに成功するか」、「どうすれば英語が得意になるか」などです。結局「個人の努力次第」という答えから広がりにくくなります。このような場合は、「ダイエットブームの背景にあるものは何か」のように、客観的な回答が得られそうな問いに考え直しましょう。

### ③自分の能力をはるかに超えた問い

「邪馬台国はどこにあったか」、「癌は克服できるか」などです。専門的な知識と研究方法を持たなければ解決できません。「邪馬台国の畿内説と九州説はどのようにして生まれたのか」のように、調べれば回答の方向性が見いだせそうな問いに考え直しましょう。

### ④予想の難しい未来を検証する問い

「100年後の地球はどうなっているのか」「今後SNSはどのように変わっていくのか」などです。100年後の未来を予測することは、先行研究が存在せず、洞察も難しく、研究が非常に困難になります。「温暖化が進むと、自然災害はどのように増えていくのか」のように、先行研究や現在のデータがあり、また洞察が可能なものに考え直しましょう。

### ⑤現在、起きている問い

「北朝鮮とアメリカの関係は今後どうなるのか」などは、現在起きている問題であるため、先行研究が少なく、十分な調査ができません。「なぜ、北朝鮮とアメリカは関係が悪化したのだろうか」など、先行研究があり、調査可能な問いに考え直しましょう。